

## もの言う牧師のエッセー 第43話

## オリンピック小話

### ⑥ 「またオメガかよ。。。」

男子陸上 100m決勝。「各選手いっせいにスタート。注目のウサイン・ボルトは少し遅れ気味だ。4秒過ぎたあたりでまだ横一列、と、その時ボルトが出てきた！スーッと頭一つリード！速い！8秒に差し掛かりこのままゴールかあ！」、とその時TV画面下方部に何かベロッと出て来た！赤地に白い文字で「Ω OMEGA ?」 ボルトはそのままゴオオル！

何のことはない水泳にせよ陸上にせよゴール寸前で毎回オメガのロゴがベロッと出て来る。まるでオメガが勝ったみたいだ。周知の通り、今大会も“公式計時”はオメガの担当だ。「セイコーはどうなった？」実は夏季五輪では、公式計時は第一回のアテネ大会のロンジン以来、ホイヤー、スウォッチなどのスイスの時計メーカーが独占している。対する日本のセイコーは東京大会を除けば、92年のバルセロナ大会一回のみでお話にならない。

日本時計協会の発表によれば、2011年度の日本の腕時計総輸出額は1010億円。対するスイスのそれは193億スイスフランで約1兆7千億円！何と日本の17倍！ボロ負けではないか！

69年にセイコーが安価で高性能なクォーツ時計を発売して以来、瞬く間に日本の時計は世界を席卷、スイスメーカーは苦境に立たされた。が、その後、彼らはメーカーの集約やブランド戦略などの努力を積み重ね、日本に再逆転したのである。今の日本の時計メーカーを見て

**「実際には何者でもないのに、自分をひとかどの者だと思ふ人がいるなら、その人は自分自身を欺いています。」**

**ガラテヤ人への手紙 6章3節：共同訳**

という聖書の言葉を思い出した。一方で、その国旗に神による救いと復活の象徴である十字架を頂くスイスの時計は、文字通り復活した。日本も神の力で復活することを祈る。

2012-9-2

